

30周年記念展示の詳しい日程や、開催期間中に各館で行われるイベントを紹介いたします。
展示は、中央博物館を皮切りに、9月26日から県内の博物館4館を巡回していきます。10月3日(日)には記念講演会も開催いたします。事前申し込みの必要なイベントについては各開催館にお問い合わせ下さい。

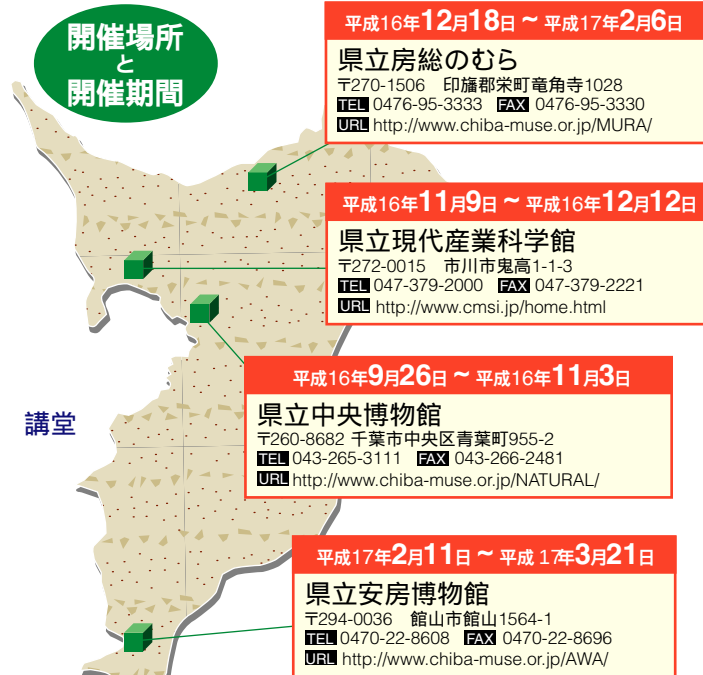
講演会 当日先着順

日時：平成16年10月3日(日)14:00から16:00まで
場所：千葉市中央区青葉の森公園内 県立中央博物館 講堂
tel 043-265-3111
演題：『聖弥呼がいたころの房総』
講師：大塚初重先生(明治大学名誉教授)

イベント 事前申し込み

古代モノづくり工房
勾玉づくり：平成16年10月11日(月)10:00～12:00、13:00～15:00
平成17年 2月19日(土)10:00～12:00、13:00～15:30
火おこし：平成16年11月27日(土)13:00～15:30

開催場所 と 開催期間



県立中央博物館
県立安房博物館
県立現代産業科学館

よみがえる!古代の役所

― 山武町・成東町嶋戸東遺跡 ―

千葉県文化財センターでは、発掘調査の最新成果や調査の様子を、広く一般の方に見学していただくために、各地で現地説明会を行っています。

6月26日(土)に説明会を実施した、嶋戸東遺跡は、古代(奈良～平安時代)の武射郡の役所跡に推定されている遺跡です。県内の重要な遺跡を確認するための調査として、千葉県教育委員会の委託を受けて、平成9年度から毎年少しずつ調査が進められ、これまでに当時の建物跡や倉庫の基壇跡、門跡が発見されました。8回目となる今回の調査でも、大型の掘立柱建物等がみつかるなど、古代の役所の様相が次第に明らかになりつつあり、今後の調査研究が期待されています。



古代のツインタワー出現! (印西市馬込遺跡)

表紙の説明

出展中

表紙に浮かぶ二つの塔は、馬込遺跡から出土した「瓦塔」を復元し、組み上げたものです。背景は「瓦塔」が出土した馬込遺跡の航空写真です。

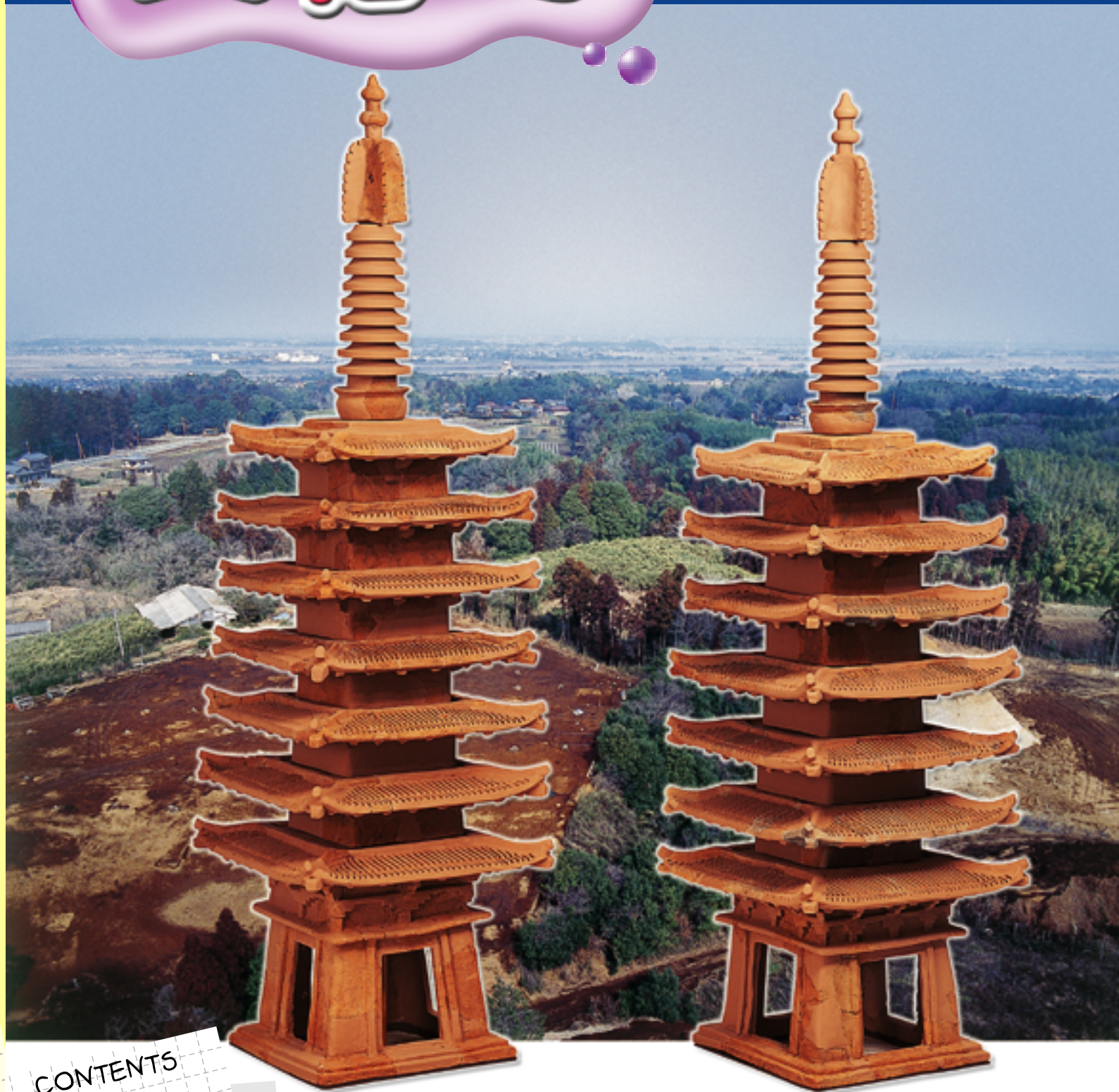


この「瓦塔」は、いまから約1,200年前頃(平安時代)のもので、お寺にある実物の塔に似せて、素焼きの焼き物で作られています。出土した破片のほとんどを使って復元したところ、七重の塔が2基あったと考えるのが、最も矛盾がないことがわかりました。復元したときの高さは、ひとつが106.5cm、もうひとつが105cmで、ほとんど同じ高さになります。「瓦塔」で七重の塔、しかも2塔が同時に見つかったのは、大変珍しい例です。

CONTENTS

- 速報コーナー 掘り起こされた房総の歴史
- 遺物紹介コーナー 常代遺跡の編製品
- 遺跡今昔物語 パーキングエリアとなった縄文時代のムラ
- 埋文アラカルト お知らせコーナー
- 埋文レポート

平成16年9月7日 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809 2
TEL 043 422 8811 (代) FAX 043 422 8850
<http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp>



「掘り起こされた房総の歴史」

皆さんの住んでいる千葉県は、三方を海で囲まれた温暖で豊かな大地です。房総半島には大昔から人々が住み始め、長い年月の間にたくさんの人々の生活の跡（遺跡）が残されました。実は千葉県は「日本一！」遺跡の数が多いことを、皆さんはご存じでしょうか？

私たち財団法人千葉県文化財センターは、千葉県内の遺跡を発掘調査する機関として昭和49年11月に設立され今年で30周年を迎えることとなりました。センターではこれまでに、県内約2,000カ所以上の遺跡の調査を行い、500冊にも上る調査報告書を刊行してきました。この度、30周年を記念して、

それらの成果の中から「掘り起こされた房総の歴史」と題する展示会を開催することとなりました。

展示会では、県内の様々な地域からみつかった貴重な品々が、一堂に会します。

長い年月、静かに地中に眠っていた、石・土・金属・木・骨でできた様々な素材の遺物たち。皆さんは、昔の人々が使用した道具を見てどんな感想を持たれるでしょうか？

是非お近くの開催館に見に来て下さい！（日程等は裏表紙）

これまでの常識を覆す、歴史を変える大発見!!

静かに揺らすと「コロン」と涼しい音色です!!

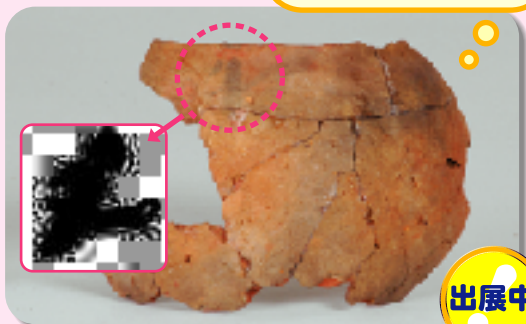
出展中



鹿の骨にジュ!っと焦げあとを占ったのでしょうか？

弥生時代の古い骨「骨」(市原市草刈遺跡)

出展中



出展中

東日本最古3世紀末頃の墨で書かれた文字「久」の墨書土器(流山市市野谷宮尻遺跡)

どんな人の腕飾り? 銅製六鈴釧(千葉市太田法師遺跡)



遺物紹介コーナー

出展中



土の中から現れた編製品

ようなものが横になっていて、その上半分が無くなっているように見えます。幅広の経材に緯材を交互にくぐらせた「ざる編」で丁寧に編まれ、縦方向に4本の木の支えが入っており、魚を捕る道具と考えられます。

このような編製品では、「釜」などが考えられますが、今までに見つかった弥生時代のものや現代のものには、こうし

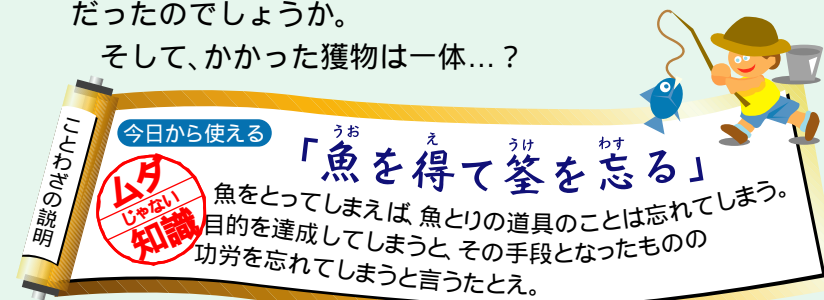
獲物を待って2,000年!?! ～君津市常代遺跡の編製品～

君津市の常代遺跡では、弥生時代中期(約2,000年前頃)の川の跡から、植物で編まれた編製品が出土しました。ちょっとわかりづらいのですが、発見時の写真を見ると、砲弾形のカゴの

た木芯が入っている例がないため、断定はできません。「釜」は、川底などに仕掛けて魚を捕る道具で、『古事記』や『万葉集』にも記述が見られます。古くから「魚を得て釜を忘る」などの「ことわざ」があるように、人々の生活になじんだ道具の一つであったと考えられます。

はたして? 常代遺跡の編製品は、川底に仕掛けられた「釜」だったのでしょか。

そして、かかった獲物は一体...?



今日から使える

「魚を得て釜を忘る」

魚をとってしまえば、魚とりの道具のことは忘れてしまう。目的を達成してしまうと、その手段となったものの功労を忘れてしまうと言ったとえ。

パーキングエリア となった、 縄文時代のムラ

遺跡
今昔物語

—印旛郡酒々井町墨古沢遺跡—

東関東自動車道の酒々井パーキングエリア(下り線)は、日本の空の玄関「成田空港」に最も近いパーキングエリアとして、空港を利用する人々でいつもにぎわっています。以前にくらべ広くなって、平成14年5月25日にリニューアルオープンしました。

墨古沢遺跡の発掘調査は、その拡張工事に伴い、平成11年から平成13年にかけて行われ、縄文時代中期から晩期の集落跡や、中世の屋敷跡、墓跡などが数多く発見され、現在も整理作業が続けられています。

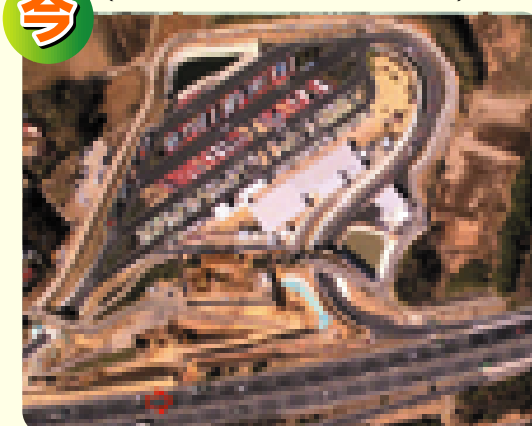
写真の土器は、墨古沢遺跡から出土した縄文時代中期中頃(約4,500年前)のもので、器の装飾には東北地方や西関東の影響が見られます。

印旛沼の南側には、以前から大規模な縄文時代の集落跡の存在が知られていましたが、墨古沢遺跡がある東側については、これまでほとんど明らかになっていませんでした。今回の調査によってこの地域からも大規模な集落跡が発見されたことはとても驚くべきことで、房総半島の縄文文化をより深く理解する上で、極めて重要な調査となりました。

空から見た遺跡



発掘調査中の墨古沢遺跡(下方に見えるのが昔のパーキングエリア)



現在の酒々井パーキングエリア(JH提供)

出展中



墨古沢遺跡出土の様々な装飾の縄文土器

旧石器時代

約12,000年前

縄文時代

弥生時代

約2,300年前

古墳時代

約1,700年前

飛鳥時代

710 794 奈良時代

平安時代

1,192 1,333 鎌倉時代

室町時代

1,576 1,603 安土・桃山時代

江戸時代

1,668 大正

明治

昭和

近・現代

平成

近・現代

昭和

近・現代

平成